

平成 25 年度 群馬県ユネスコ連絡協議会予算

1 収入

単位：円

科 目	25年予算額	摘 要
繰越金	12,158	前年度からの繰越金
会費	514,000	12単ユ×4万円=48万円 ソロプチミスト 1万円 会場使用料 2万4千円
事業収入	400,000	新聞代 12ユ協×2万円 名刺交換 12ユ協80人×2千円
補助金	90,000	群馬県 9万円
雑収入	1,000	預金利子等
合計	1,017,158	

2 支出

単位：円

科 目	25年予算額	摘 要
会議費	30,000	理事会・役員会等会議費、会場費
旅費	60,000	各種交通費
通信費	20,000	事務連絡用はがき・切手代
印刷費	10,000	各種コピー代
消耗品費	20,000	事務用品代
事業費	796,000	
新聞発行費	250,000	ユネスコ群馬発行 (68号・69号)
単ユ協助成金	276,000	12ユ協×2万3千円
県ユ連総会	40,000	中之条ユ協
海外青年交歓研修会	60,000	伊勢崎ユ協
ユネスコ研修会視察	60,000	藤岡地方ユ協
世界遺産委員会	30,000	安中碓氷ユ協
国際理解バス	10,000	県ユ連・各ユ協
運営研修会	60,000	沼田ユ協
ユネスコスクール	10,000	—
文化活動補助費	24,000	児童画展 4ユ協×6千円
構成負担金	9,600	日ユ協年間負担金・教育振興会
周年行事積立金	20,000	積立金
慶弔費	10,000	
予備費	17,558	
合計	1,017,158	



# ユネスコ研修視察

藤岡地方ユネスコ協会

1 目的

「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産として、登録される日が近づいてきた。そこで、絹産業遺産としての藤岡市にある「高山社」の果たした役割や蚕業史、蚕業が生活に与えた文化（ことばや慣習）などを学び、世界遺産登録への理解を深める。

2 日時・場所

平成25年7月11日(木)

10:00～15:00

藤岡歴史館、高山社跡、諏訪神社

3 参加人数 60名

4 日程

(1) 開会行事

(2) 講演「絹のことば」

講師 群馬県立女子大学

新井小枝子准教授

(3) 昼食・藤岡歴史館内見学

(4) 「堀越」二郎の軌跡」企画展

(5) 現地見学 (バスで移動)

高山社跡、諏訪神社

(高山長五郎功徳碑、町田菊次郎

頌徳碑)

5 実施の効果

講演は、「絹のことば」を群馬の四季という視点から、ことばの多様性を再考したものである。養蚕に使われたことば(絹のことばは、「〇〇サンガ キテク レタンワ バンシューダヨ」「真綿のよ



うな雪」など、いま養蚕を超えて、日常的に使われている。蚕業が生活に与えたことばの文化を実感できた。

現地見学の高山社跡では、高山長五郎が考案した養蚕法「清温育」について説明を受け、障子戸や天井など、空気が流れやすいように工夫された構造を確認できた。諏訪神社では、高山長五郎と町田菊次郎の功績について書かれた石碑を見学。寄付者1,716名、2府22県に及ぶことから高山社の全国への広がりが見える。

「高山社」は、蚕業の教育機関として、約40年間、日本の養蚕飼育をリードし、清温育を指導する「授業員」を全国に派遣した。1日という短い時間ではあったが、絹産業遺産「高山社」の文化的な価値を実感できた。